
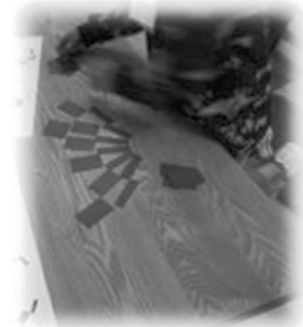



取組・活動名		<b>みんなでチャレンジ！ エンブレムデザインをつくってみよう！</b>				
校種・学年		小・中学校・全学年		教科等	図画工作・生活 総合的な学習の時間等	
カテゴリー	歴史・意義	アスリート	多様性	日本人	時間・学期等	1～5時間
	国際感覚	ボランティア	伝統・文化	(その他)	準備等	画用紙(白、色)、色鉛筆、クレパス、様々なエンブレム等
<b>プログラムのねらい</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリンピック・パラリンピックのエンブレムの成り立ちやデザインについて理解する。</li> <li>○三角形や四角形など、身近にある基本的な図形を好きに組み合わせて素敵なエンブレムやマークをデザインする。</li> </ul>						
<b>児童・生徒の実態</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○埼玉県はオリンピック・パラリンピックの競技開催地をいくつも抱えており、開催が迫るにつれ、児童・生徒たちは、オリンピック・パラリンピックの話題に触れることが増えてくる。</li> <li>○興味のある競技等への関心がより一層高まる一方、オリンピック・パラリンピック、またラグビーワールドカップ 2019™ など、世界規模の大会の歴史や意義を知らない児童・生徒も多い。</li> <li>○オリンピック・パラリンピックに限らず、様々な競技等で使われるエンブレムについて学習することは、児童・生徒たちがより大会に精通するとともに、児童・生徒のより良き成長につながる。</li> </ul>						
<b>プログラムと既存の学習との関わり</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>○エンブレムをきっかけに、オリンピック・パラリンピック等、その大会や競技について学ぶことは、社会や保健体育等との関連が深い。</li> <li>○オリンピック・パラリンピックそのものを学ぶのであれば、総合的な学習の時間において、そのトピックを、福祉やボランティア、国際理解など様々な切り口で取り扱うことができる。</li> <li>○エンブレムを学ぶにあたっては、メディアリテラシーや著作権の問題など、社会のルール等に触れる意味で、道徳科との関連も深い。</li> <li>○小学校の外国語等や中学校の外国語でこのトピックを活用し、学習効果を高めることもできる。</li> <li>○エンブレムをデザインととらえるならば、図画工作や美術での学習も可能である。</li> </ul>						
<b>指導計画・評価計画</b>						
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オリンピック・パラリンピックについて、その歴史や意義、また2020年に東京で行われるオリンピック・パラリンピックの概要などについて、写真や映像などの資料を活用して理解する。</li> <li>○東京2020オリンピック・パラリンピックのエンブレムの特徴について調べ、そのパーツを活用して実際にエンブレムの一部を作る。</li> </ul>					
2-4	○三角形や四角形など、基本的な図形の組み合わせを楽しみながら、自分で決めたテーマのエンブレムやマークを作る。					
5	○互いの作品を鑑賞し合い、そのデザインのよさや意味を理解し合う。					

本時の学習指導（本時 1 / 5）		
<b>(1) 本時の目標</b> ○ オリンピックやパラリンピックについて、その歴史や意義について理解する。 ○ 2020年に東京で行われるオリンピック・パラリンピックの概要について理解する。		
<b>(2) 展開</b>		
時間 (分)	学習活動	支援・留意点等
10	1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の概要等について、映像や写真資料などを活用して理解する。 （クイズ形式） (1) 東京2020オリンピック・パラリンピックについて (2) オリンピック・パラリンピックの歴史や意義等 	・オリンピック・パラリンピック教材等を活用する。 ・埼玉県や自分たちの住んでいる市が競技開催地であることを理解する。
10	2 エンブレムについて調べる。 ○エンブレムは様々な長方形や正方形の組み合わせによってデザインされている。	・単純な四角形の組合せによって、様々な形が作られるよさに触れる。
20	3 様々な長方形や正方形を使って、東京オリパラのエンブレムの一部を作る。 ○台紙の上に長方形や正方形を並べながら、エンブレムの一部を作る。 	・デザイナーの気持ちや考えに触れる。 ・友達と協力して活動する。
5	4 本時の学習を振り返り、次回、自分だけのオリジナルエンブレムを作ることを知る。 	・どんな思いを込めてデザインするのか、次時へのわくわく感を高める。
成果		おすすめポイント
○授業実践を通して、児童・生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めることができた。 ○過去のエンブレムや、他の大会等のキャラクター等をたくさん見せることで、児童・生徒の自由な発想の展開が図られた。 ○社会に開かれた教育課程が推進される中、教師はその効果や効率性を具体的に追究することができた。 ○教師は他教科等の関連付けについて、考えることができた。		○本実践は、放課後子ども教室で行われたエンブレムパズルの実践をもとにしていることから、授業以外での実践も考えられる。 ○保護者や地域の方との活動にも十分活用できる。 ○地域でオリパラにかかわる人をゲストティーチャーとして招くと効果的である。
		“次代に語り継ぐ”ポイント
		○社会の動きを、日常の学習活動に関連付け、その話題性だけに引っ張られず、どうやって教育効果を高めるのかを考えていくことが、授業改善の視点において次代の教員に語り継ぐポイントとなる。 ○一つの素材を、様々な切り口で考えていくと、国語や算数、その他様々な教科等の教育効果を高めることにつながることで、授業づくりにおいて、次代の教員に語り継ぐポイントとなる。